

第11回 自動車安全技術プロジェクトチーム会議の概要

1 開催日時等

(1) 日時 平成30年3月20日(水) 午後2時30分～午後4時30分

(2) 場所 ウィンクあいち 18階 セミナールーム

(3) 出席者

【企業】

石尾 渉 オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株) 開発統括室技術開発部長

木津 雅文 トヨタ自動車(株) ITS企画部長

河野 慎司 アイシン精機(株) 走行安全制御技術部長

越山 敬一 中部日本自動車学校 取締役

白石 恭裕 三菱自動車工業(株)車両技術開発本部チーフテクノロジーエンジニア

樋口 正浩 (株)デンソー ADAS推進部 事業推進室長

松永 栄樹 (株)アドヴィックス 制御第2技術部

【大学】

小栗 宏次 愛知県立大学 情報科学部 教授

鈴木 達也 名古屋大学 大学院工学研究科機械システム工学専攻 教授

【行政】

国土交通省中部運輸局

豊田市

愛知県知事 大村 秀章

愛知県産業労働部、振興部、県民生活部、建設部

愛知県警察本部

【講師】

水野 幸治 名古屋大学 大学院工学研究科機械システム工学専攻 教授

平田 豊 中部大学 大学院 工学研究科 情報工学専攻 教授

2 議事概要

- 知事挨拶の後、事務局及びメンバーから、今年度のプロジェクトチームの取組成果及び関連の取組について報告を行った。
- 成果報告等の後、意見交換を行った。主な発言は以下のとおり。

【主な発言・報告】

- プロジェクトチーム関連の取組に関して伺いたい、弊社もドライバー向けのVOR(※Vestibulo-Ocular Reflex: 前庭動眼反射のこと)を研究している。弊社は自動車用を前提として開発をしているが、自動車業界以外では主にどのような業界から引き合いを得ているのか。また装着型と伺ったが、自動車業界では非装着型が求められていると考えるが、その点についてもご意見を伺いたい。

- 色々な方から引き合いがあるが、一つはスポーツビジョンである。東京オリンピックを視野にいれた動きであると考えられる。もう一つは、医療関係である。様々な病気の初期症状判定に使用できないか検討している。他には熱中症の検知、安眠できる環境のデザイン等の問合せである。据え置き型では前庭動眼反射等の眼球運動を正確に感知することが今の技術では難しいので、目の細かな動きを判定するためには装着型でないと難しいと感じている。
- 昨年末以来、当社からも自動運転関係で様々な情報発信をしているが、最も重要なのは安全であると社内でしっかり議論をしている。完成車メーカーとしてプレッシャーを現場は感じているが、この会議に出席すると同志がいることを確認でき、勇気づけられる。
- 初回からPTに参加しているが、回を重ねるごとに具体的な報告ができるようになってきている。事故分析WGでは定量的なデータ分析によりAEB（Automatic Emergency Braking：衝突被害軽減ブレーキ）の事故低減効果を示せている。製品開発をするのは我々メーカーの役割であるが、後付けも含めてAEB等の安全装置に対して自治体からの購入補助があれば装着率が増え、事故が減るのではないかと思った。
- 本校は「やごと感車祭」を開催し、自動ブレーキや誤作動防止等の自動車安全技術を体験する取り組みを行っている。現在は助手席に乗車して体験してもらっているが、自ら運転席に乗って体験してほしいと思っている。
- ドライブレコーダーの実事故データ等から、事故を予防するための要件を具体化したり、プローブデータから事故の起こりそうな場所のインフラ整備を行うなど、地に足がついた具体的事故低減活動に繋がってきていると感心した。特にインフラ整備まで行うことは愛知県以外の他の都道府県には無い取組だと思った。当社も、事故防止のためのセンサやインフラ連携通信機器などを製造するメーカーとして貢献していきたい。
- 事故分析WGのシミュレーション精度を上げるべく、県内大学の研究チームに弊社が所有しているデータを提供できたことは良かった。今日のPTで衝突軽減ブレーキが事故低減に効果があると報告されていたが、弊社は摩擦材から制御ブレーキまで幅広く開発しており、その開発の方向性を考える上でも有益なものがあった。
- 事故が様々な要因が複雑に絡んで起こるものだと分かった。ドライブレコーダーの事故映像を基に分析ができると、エビデンスに基づいた事故防止策の研究ができるようになる。多くの事故データの分析を進めると、今までわかっていなかった事故原因が「見える化」され、エビデンス・ベースド・セーフティが進むことを期待している。

- 自動ブレーキ等の先進技術は今後も装着が進んでいくとみられ、国もそれらの技術に対応した基準策定を進めている。また、自動運転車両についても国土交通大臣を本部長とした『国土交通省自動運転戦略本部』を立ち上げ、対応を進めている。本会議の議論内容を持ち帰り、引き続き対応していきたい。
- 「名古屋モーターショー」と併催で「あいちITSワールド2017」を開催した。4日間の会期で20万人以上に来場いただいた。本日出席頂いている大学や企業だけでなく、このPT自体もブースを出展してもらった。この場を借りて謝意を伝える。
- 当課では交通安全計画を統括し、交通安全協議会の庶務を担当している。地域毎に行われる交通安全運動を推進しており、県民への広報・啓発活動にも努めている。またドライブレコーダーに基づく事故原因の広報活動を今後も継続し、県民の運転マナー向上に繋げていきたい。
- 交通事故の発生割合の高い危険な箇所に塗装をする等して対策を進めている。昨年1月に国から新たに152箇所の「事故危険箇所」の指定を受けたが、選定にあたっては、プローブデータを基に潜在的な危険箇所として20箇所を取り上げた。対策を進めるとともに効果検証に努めていく。
- 自動車安全技術PTと2つのWGの事務局として活動している。行政だけではできない多角的かつ専門的な事故分析を行ってもらっている。来年度も引き続き事務局としての役割を全うしていきたい。
- 自動運転の商品開発が進み次第、何らかの形で実証実験に参加したい。規制緩和の影響かわからないが、ACC（Adaptive Cruise Control：定速走行・車間距離制御装置）あるいはクルーズコントロールは従来、高速道路制限速度100km/hに対して115km/hの最大設定車速として運用されていたが、最近、国内メーカーで180km/hまでセット可能なACCが商品化されている。当社としては節度を持って社会的コンセンサスを得られる形で商品開発を進めていきたい。
- 当PTに御協力いただき感謝している。ITSの協議会を設置し普及啓発を行っている。メンバーの中にもより具体的になっていることを評価する声があがっていたように、具体的な研究結果が積み重なれば当PTが意義あるものになっていく。新しい技術が今後も実用化されていき、交通事故の撲滅につながることを期待する。
- 県内の交通死亡事故者数が全国ワーストとなった。昨年5月に大村知事より県内交通安全対策のメッセージを発し、県内全域で交通事故防止対策を行った。当PTでも取り扱っている先進技術を搭載した自動車の普及を産業労働部と協力して進めていきたい。